

(有) 静岡健康企画 ことぶき薬局 TEL055(977)6024 たまち薬局 TEL054(251)1678
ひまわり薬局 TEL053(463)4312 みかん薬局 TEL053(584)2230

～ 帯状疱疹について～

日本人の6人に1人が一生の内にかかると言われる帯状疱疹。治療薬の抗ウイルス薬は高価ですが、皮膚の異常に気付いたら放置せず、早めにきっちり治療すれば多くの場合完治します。放置したり、無理をしたりしてこじらすと激しい神経痛などの後遺症が残って、長年苦しむことにもなります。

発症の原因は

子供の時かかる水疱瘡が治った後、ウイルス（水痘・帯状疱疹ウイルスと言います）が身体の神経節に何十年も潜み続けます。身体の免疫力が落ちたときに再び増殖して活動を開始して、神経を伝わって皮膚表面に現れ水疱をつくり症状が出ます。

どういう症状が現れますか？

★皮膚がびりびりした感じや鈍痛で始まります。その後4～10日後に身体の左右どちらかに1本の神経に沿って赤いぶつぶつ（発疹）や小さい水ぶくれが帯状に出現します。最初は虫刺されかと思うほどです。身体の片側に出るのが特徴です。

発疹は痛みを持ち4～5日続き、その後徐々に赤みが薄くなり、通常は3～4週間で治ります。痛みのピークは通常は発症後2週間前後で、痛みのため夜も眠れないこともあります（**帯状疱疹痛**といいます）。

皮膚症状は、発赤→水疱→膿疱→ただれ→かさぶたの経過をたどります。

★好発部位は、①肋間神経の走行（わき腹）に沿って痛みが起こる（肋間神経痛）。②三叉神経第1枝（顔面のまゆ毛の上）領域、その他全身どこでも。顔面に起きた場合は特に注意が必要です。顔面神経麻痺により顔がまがる人もいます。

後遺症が残るって本当？

とにかく早めに受診し、治療を開始しましょう！

★高齢者（50才以上）ほど**後遺症**を残す率が高く、治療が遅れたり、充分でないと、皮膚の症状が綺麗に治っても痛みが残ることがあります（**帯状疱疹後神経痛**といいます）。“電気がはしるようだ”、“焼けるような痛み”とか、“ピリピリする痛み”とか色々な表現がされます。不思議と寝ている間は感じない特徴があります。

「**帯状疱疹後神経痛**」は神経変性による疼痛だろうと言われていて、数か月から数年以上にわたって痛みが続くことがあります。帯状疱疹後神経痛への移行は約10%程度ですが、70歳代では程度の差はあっても50%以上の人々が神経痛に悩むと言われてい



どのような治療がありますか？

★早期に抗ウイルス薬（商品名；①バルトレックス®、または、②アシクロビン®）による治療を受けましょう。点滴・内服により短期間で回復が期待できます。点滴は1日3回行うため、入院が必要になります。内服薬での効果も優れており、最近では服用回数の少ないバルトレックス錠が広く用いられています。

以下の方は、必ず医師と相談しましょう。

＊高齢者や腎機能の低下している方；薬の量を調整します。

＊妊婦や授乳中の方；特に妊娠初期は治療薬を控える事もあります。

抗ウイルス薬は高価であるため、会計時に驚く方も少なくありません。1日の薬価は①3,377円、②1,808円（ジェネリック薬品の場合）。薬価とは保険適応前の薬の値段です。実際の窓口負担額は0～3割です（ただし別途調剤基本料などが加わります）。

★皮膚症状に対しては、抗ウイルス薬の塗り薬（商品名；カサールクリーム®、ゾビラックス眼軟膏®など）があります。

★神経痛に対しては、消炎鎮痛剤（商品名；ケンタン®など）やビタミンB12（商品名；メチクール®）が処方されます。また、抗うつ薬や抗けいれん薬が特効する場合があります。痛みが強い場合は、神経ブロック療法が行われます。

★安静にして十分な栄養と睡眠を取りましょう。

★痛みが強い場合は、患部を冷やさないようにして、お風呂に入った時など温めて軽くマッサージすると痛みが和らぎます。

予防・注意点は

★60才以上の高齢者に発症することが多い。疲労、睡眠不足、ストレス、風邪や老化などで体の免疫力・体力が落ちたときに発症します。抗ガン剤治療や日光による刺激でも発症します。規則正しい生活を心がけ無理をしないようにしましょう。

★昔は一度罹患すると一生涯かからないと言われていましたが、免疫力が落ちると繰り返して発症する可能性があります（再発する人は100人に数人程度）。

★水疱は破らないように注意しましょう（細菌感染を防止する）。水疱が破れているときは入浴を避けましょう。

★大人にうつすことはまずありません。ただし、水疱瘡にかかったことのない子供にはうつることがあるので近づけないようにしましょう。

単純疱疹（口唇ヘルペス）との違いは？

単純ヘルペスウイルスが原因で、带状疱疹とは別の病気です。初めは発熱や倦怠感などの症状を伴うことがあり、顔面や口のまわりに小さな水泡ができ、次第に大きくなります。風邪や紫外線による影響、睡眠不足や体力が低下したときに現れます。やっかいなのは、人によっては再発を繰り返すこと、アトピーの赤ちゃんなどにうつることです。痛みは軽く、後遺症が残らないのが大きな違いです。治療は抗ウイルス薬の塗り薬を使いますが、初感染や重症化した場合は抗ウイルス薬を内服することもあります。

文責：竹端尚美